Ｖ－４５　あすなろ分教室

１　授業研究会について

月　日	領域教科名	単元名	対　象	指導者
6 月 21 日	自立活動	始まりの会をしよう	高等部３年　１名	川原木雅子
7 月 18 日	自立活動	始まりの会をしよう	高等部１年　１名	石塚道子 八重樫卓谷
8 月 30 日	自立活動	四つ葉のクローバー（押し花）カードをプレゼントしよう	高等部２年　１名	菅原建造
10 月 22 日	自立活動	清明祭を振り返ろう	小中高生　８名	米屋初恵 他７名
11 月 11 日 午前	自立活動	始まりの会をしよう	中高生　８名	久保理香 他７名
11 月 11 日 午後	自立活動	始まりの会をしよう	小中高生　８名	梅野郁子 他７名

重度重複障がいの児童生徒を対象としているあすなろ分教室では、１対１の個別の支援による個別の学習場面と集団学習場面を設定しており、前半３回の授業研究は個を対象とし、後半３回は集団を対象に行った。

【第１回】　「始まりの会」の授業を行い、ビデオを見合って検討した。学習の繰り返しや継続により、友達の写真カードを使った係の選択活動やトーカーを使った進行のスイッチ操作に主体的に取り組んでいる姿や、役割意識、友達関係が育まれてきていることを確かめることができた。

【第２回】　「始まりの会」の授業を行い、「おはよう」「こんにちは」カードや、「○」「×」カードなど新たな教材を用いて選択場面を設けた。カードの活用により、言葉がなくても手足を伸ばしたり、手足が不自由でも視線を向けて選択するなどの学習の様子をビデオで確かめることができ、教材の工夫の効果を確認した。また、係に指名されなかった児童生徒の学習活動が話題となり、「始まりの会」の授業研の対象を個人から集団にしていくこととした。

【第３回】　「個別の学習」で押し花のプレゼント作りの授業を行い、今日は誰に？台紙の色は？どの花を使う？貼る位置は？等々、生徒の選択活動を多くし、障害を考慮した活動しやすい場の設定をした。友達を喜ばせたいという身近な目的の活動により、制作には教師の支援を多く要するものの、主体的で成就感や有用感を味わえる制作活動になっていることが確認できた。

【第４回】　集団活動「あすなろタイム」で清明祭のまとめの授業を行った。劇中の効果音や台詞、小道具等を使ったり、例示して選択できるようにすることで、視覚的障害を伴う児童生徒にもより主体的な感想発表を支援することができた。前に出て友だちの注目を浴びながら発表し、賞賛や拍手をもらうような場面の工夫が成就感を育むことに有効であることを確認できた。

【第５回】【第６回】　午前と午後の学習集団に同じ内容で「始まりの会」の授業を行った。多様な障害の実態や興味関心を考慮し、児童生徒の注目を集められるように出席確認の時

には清明祭で使った馴染みの小道具を一緒に回して呼名する、音で分かるように当番カードに鈴をつける、持てなくても引っ掛けて選べるように写真カードにモールの紐を付ける、偶然的な選択を楽しめるように「運命の箱」を用いる等の工夫を行った。個々のできることを活かし、互いの取組み方や個性を認め合い、かかわりを楽しんで活動する児童生徒集団の姿を見ることができ、自己有用感を育むためには教材・教具の工夫が大切であることを確認することができた。また、始まりの会の更なる改善点について確認し合った。

２　発達段階に応じた自己有用感の形成・自己有用感の向上のための支援について

（１）授業実践を通して得られた有効な支援

〇心の安定
- マッサージなどのスキンシップ
- 好きなことを受け止める
- 教師や友だちとの楽しいかかわり

〇健康・体力
- 健康観察による体調に応じた働きかけ
- リラクゼーションで緊張緩和

〇社会性
- 友達とのかかわり場面
- 係活動

〇教材・教具の工夫
- 興味、関心のあるものの活用
- 五感に訴える、できる分かる教材
- 個に応じた複数の手立て
- 繰り返しの学習や支援の継続
- 教材の整理
- 支援機器の活用

〇成就感
- 友だちの前での発表や賞賛
- 友だちに注目される場の設定
- 目的を持つ
- 自己選択、自己決定

（　は、キャリア教育目標とかかわる支援）

（２）まとめ

あすなろ分教室の児童生徒は、専門的なケアのもとでの療育を必要とするため、幼少期から長期にわたって家庭を離れており、家族や周囲にとって、日々の体調に応じて自分らしさを発揮して友達と一緒に楽しんで活動する姿自体が「ありがとう」に値する。在籍は、小学部と高等部に学齢児が各１名の他、中学部・高等部は 30 代～60 代と年齢の幅が大きく中高齢者が多い。故にあすなろ分教室のキャリア教育では、今持っている興味関心・個性を受け止めて学習活動に生かし、できる、分かる、一緒に楽しめる学習の場を作り、今の学校生活を充実させることが大切と考え授業研究に取り組んだ。

自己有用感は、周囲から大切にされ、認められ、温かく接する中で芽生えてくるものであり、心地よい楽しい経験を通して、自分や友達を大切に思い、うれしい、ありがとうの気持ちや、一緒に楽しみたい、喜ばせたい、やってあげたいという気持ちが育まれると考える。授業実践を通して、あすなろ分教室では、「心の安定」「健康・体力」にかかわる支援のもと「社会性」「成就感」を考慮し「教材・教具の工夫」による支援をしていくことが自己有用感の向上に有効であった。

また、全体計画の各学部段階におけるキャリア教育目標の作成時には、「健康・体力」「豊かな人間性」「確かな学力」の「総合生活力」に大きく偏り、「人生設計力」にかかわる「将来設計力」「職業観」「社会を把握する力」にかかわる内容は少ないように思えたが、授業研究会を行いながらキャリア教育の視点から見直すと、「人生設計力」の各項目にも自己有用感の形成・向上にかかわる支援を多く見出すことができた。